

「星の王子さま」翻訳、没後30年

内藤濯しのび音楽会

濯の長男で作家の内藤初穂さん(85)鎌倉市在住IIが代表を務める同会実行委員会の主催。

晩年の訳著「星の王子さま」をはじめ、さまざまな詩や戯曲の翻訳を手掛けた仏文学者内藤濯(一八八三―一九七七年)の没後三十年を記念し、「星の王子さまの会」レクチャー・コンサート」が二十五日、東京・上野公園内の旧東京音楽学校奏楽堂で開かれた。「星の王子さま」を愛読された皇后さまも出席、皇太子妃時代に濯の短歌に添えた歌曲が初お披露目された。

(北村 陽子)

二男で幸穂さん(81)が理事長を務める関東学院大学、神奈川新聞社の協賛。

東京帝国大(現東京大)で仏文学を学んだ濯は、東京商科大(現一橋大)の教員などを経て、七十歳で「星の王子さま」を翻訳。五三年に岩波書店

旧東京音楽学校奏楽堂



から出版された同書は、児童文学の枠を超え今もなお幅広い年代の人々に読み継がれている。

皇后さま出席



内藤濯氏をしのぶ会の会場に入られる皇后さま (代表撮影)

作曲の歌曲初お披露目

冒頭に講演した共立女子大の鹿島茂教授は、濯者の美しい言葉の世界に浸っていた。

田今日子さんによる朗読テープも流された。

コンサートでは濯が作詞や翻訳をした唱歌など四曲に続き、皇后さま作曲による歌曲「星の王子の……」が女声合唱で披露された。「いづこにかにかすむ宵なりのほのぼのと星の王子の影とかたち」と詠んだ濯の短歌が、皇后さまが作曲された柔

皇后さまが作曲された歌も披露された

「星の王子さまの会」レクチャー・コンサートII東京・旧東京音楽学校奏楽堂(吉田 太一写す)



皇后さま作曲の歌曲 「星の王子…」披露

「星の王子さま」を翻訳した内藤 濯の没後30年記念コンサートに皇后さまもご臨席。皇太子妃時代、濯の短歌に作曲された歌曲が初お披露目された。

神奈川新聞 1面上

読売新聞

◆皇后さまコンサート鑑賞 皇后さまは25日、東京・上野公園の旧東京音楽学校演奏堂で「星の王子さまの会」レクチャーコンサートを鑑賞された。
コンサートは、サンテグジュペリの「星の王子さま」を翻訳した仏文学者・内藤濯(あろう)氏の没後30年を記念し、遺族らが企画。童話を愛好する皇后さまは、1963年、内藤氏から同書の翻訳版を贈られたのが縁で、交流があったという。この日のコンサートでは、68年に内藤氏が作詞し、皇后さまがピアノで曲を付けた歌「星の王子の」が、女声合唱団の美しい歌声によって公の場で初めて披露され、皇后さまは盛んに拍手を送られていた。

毎日新聞

◆皇后さまの曲、初めて披露 フランスのサンテグジュペリ作「星の王子さま」(岩波書店版)の翻訳者、故・内藤濯(あろう)氏が詠んだ短歌に皇后さまが付けた曲が25日、38年ぶりに初めて披露され、皇后さまも関係者らとともに鑑賞した。
東京都台東区の上野公園内にある演奏堂で開かれた「星の王子さまの会」レクチャー・コンサートで演奏された。この会は、内藤氏の没後30年を迎えるに当たって、遺族や関係者が主催。皇后さまが1963年ごろ、同書の愛蔵版を献本されたことがきっかけになり、その後、内藤氏はじめ文学者らが集う「星の王子さまの会」に出席するなど交流が続いた。
内藤氏が38年前にエッセー集「星の王子とわたし」を出版した際、「いつここにかすむ昔なりほのほのと星の王子のかけとかたち」との歌とともにこの歌の「歌曲化がなされることを夢みている」と書いた。それを読んだ皇后さまが曲を作り、内藤氏に贈ったがこれまで公表されることはなかった。

「星の王子さまの会」 皇后さま自由曲鑑賞

サンテグジュペリの童話「星の王子さま」を訳したフランス文学者内藤濯(あろう)氏の没後30年を記念する「星の王子さまの会」レクチャー・コンサートが25日午後、東京・上野の旧東京音楽学校演奏堂で開かれ、皇后美智子さまも出席した。関係者によると、美智子さまは、皇太子妃時代に

朝日新聞

に内藤氏と親交があり、この日は内藤氏の歌に美智子さまが曲をつけた「星の王子の……」も初めて披露された。
内藤氏が訳本を献上したのがきっかけで美智子

さまと親交が続き、68年、内藤氏が著書に星の王子を詠んだ短歌を添え、曲をつけてくれる人を求めたところ、美智子さまが自作の楽譜などを届けた。内藤氏は生涯にわたって公開せず大切に

していたという。
38年を経て初めてアンサンブル・ウィオレの女声合唱で公演された歌に、約250人の聴衆は皇后さまに盛んな拍手を送っていた。

インターネットより

皇后さまの曲 38年ぶりに初めて披露 内藤氏の短歌



拡大写真

「星の王子さまの会」レクチャー・コンサートに出席された皇后さま＝東京都台東区で25日午後、代表撮影

フランスのサン＝テグジュペリ作「星の王子さま」(岩波書店版)の翻訳者、故・内藤濯(あろう)氏が詠んだ短歌に皇后さまが付けた曲が25日、38年ぶりに初めて披露され、皇后さまも関係者らとともに鑑賞した。

東京都台東区の上野公園内にある奏楽堂で開かれた「星の王子さまの会 レクチャー・コンサート」で演奏された。この会は、内藤氏の没後30年を迎えるに当たって、遺族や関係者が主催。

皇后さまが1963年ごろ、同書の愛蔵版を献本されたことがきっかけになり、その後、内藤氏はじめ文学者らが集う「星の王子さまの会」に出席するなど交流が続いた。

内藤氏が38年前にエッセー集『星の王子とわたし』を出版した際、「いづこかにかすむ宵なりほのぼのと星の王子のかげとかたちと」の歌とともにこの歌の「歌曲化がなされることを夢みている」と書いた。それを読んだ皇后さまが曲を作り、内藤氏に贈ったがこれまで公表されることはなかった。

この日、会の最後にピアノ伴奏と女声合唱で演奏され、皇后さまはうなずきながら耳を傾けた。演奏後、会場からの拍手に立ち上がって応える場面もあった。【大久保和夫】

(毎日新聞) - 3月26日 10時34分更新

星の王子さま訳者しのぶ 皇后さま出席

「星の王子さま」の翻訳で知られる仏文学者の内藤濯氏をしのぶ会が25日、東京・上野の旧東京音楽学校奏楽堂で開かれ、内藤氏と交流のあった皇后さまが出席された。内藤氏の和歌に、皇后さまが皇太子妃時代に作曲した歌曲「星の王子の…」も披露された。

内藤氏とゆかりのあった女優の岸田今日子さんらが朗読した「星の王子さま」のテープが流されたり、内藤氏がシューベルトの曲に作詞した「子守歌」などが演奏された。「星の王子の…」はアンコールも含めて2回合唱され、皇后さまは笑顔で鑑賞していた。

(共同通信) - 3月25日 18時37分更新